

令和4年度（2022年度）公共事業再評価調査書

（様式3）

基準年月日 令和4年8月1日

調書番号	07-01	所管部	水産林務部	作成責任者	水産振興課漁場事業担当課長 神田 謙治
				担当係	漁場整備係（内）28-273

I 基本事項（基準日時点）

事業種別	水産基盤整備事業費（水産環境整備事業）							
地区名	オホーツク海	市町村名	湧別町、浜頓別町、猿払村	総事業費	1,723 百万円			
負担割合	国	50.0%	道	40.0%	市町村	10.0%	その他	—
	862 百万円		689 百万円		172 百万円	— 百万円		

事業目的・目標
 当地区の主要魚種であるホタテガイについて、近年高波浪等の影響による斃死が多発しているため、生産性の向上を目指し、既存のホタテガイ漁場を高波浪による影響を受けにくい海域へ拡大整備する。また、ホタテガイ漁場の拡大時に支障となる当該漁場の既存魚礁ブロックを移設し、マガレイ増殖場として再編成することで、幼稚仔育成を行う増殖場として整備する。

【アウトカム】等
 ホタテガイについて、5.323t/年の増加
 マガレイについて、0.3t/年の増加

事業概要	波浪等の影響を受けにくい海域にある既存魚礁ブロックを引き上げ、ホタテガイ漁場を拡大する。 また、引き上げた魚礁ブロックを別海域に再配置し、マガレイの育成環境となる増殖場へ再編する。	工事費内訳	湧別漁場：着定基質 A=127.13ha→A=127.13ha	(百万円)	(百万円)	(百万円)
			頓別漁場：着定基質 A=671.28ha→A=1390.56ha	前回評価	今回評価	増減額
			猿払村漁場：着定基質 A=0ha→A=1024.45ha	249	534	285
			測量設計費	60	71	11
			モニタリング費		36	36
計			708	1,723	1,015	

総合計画での位置付け	総合計画の体系	大項目	中項目	小項目	施策名
		経済・産業	農林水産業の持続的な成長	水産物の安定供給を担い地域を支える活力ある水産業・豊かな漁村づくり	栽培漁業の推進や経営の安定化等による水産業の振興

特定分野別計画等での位置づけ
 施策目標・方針
 【北海道水産業・漁村振興推進計画 P9】
 （栽培漁業の推進）
 ホタテガイについて、オホーツク海海域では、漁場の被害発生リスクを表すハザードマップの作成や時化の影響が少ない沖合での漁場造成など、波浪に強いホタテガイの漁場づくりを推進する。
 水産生物の生活史に配慮した漁場整備を展開し、海域全体の生産力向上を図る。

関連する指標
 漁業生産量
 108万トン（H27）→126万トン（R9）

II 公共事業評価経過

事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)
	事前評価又は当初	H30(2018)	H30(2018)	H34(2022)			708	283			
	前回再評価										
	今回評価	H30(2018)	H30(2018)	R4(2022)			R9(2027)	4	1,723	689	263

変更理由・内容（概要）
 (1) 頓別漁場について、工事着手前の詳細な測量の結果、移設対象の魚礁ブロックが想定よりも多いことが明らかとなったことから増額
 (2) 湧別漁場について、工事着手前の詳細な測量の結果、移設対象の魚礁ブロックが想定よりも多いことが明らかとなったことから増額
 (3) 事業実施に必要な情報がそろったことから、新規漁場（猿払村漁場）を増額及び期間延長
 (4) 事業完了箇所のモニタリングを実施するため増額
 (5) 資材及び労務単価、消費税等の上昇

III 事業採択前の状況

1. 事業採択に至る経過と背景
 ●当地区は、北海道北東部のオホーツク海側に位置し、厳冬期には流水が接岸し、海中の栄養塩が非常に豊富で、漁船漁業ができなくなることと相まって、魚類などの水産資源の保護・育成に非常に重要な海域となっている。
 ●オホーツク海海域のホタテガイの漁獲量は全道の約5割を占めており、漁業生産額についても約5割を占める地域の中核をなす重要な魚種となっている。
 ●しかし、近年の気候変動に伴い爆弾低気圧や台風が北海道周辺を通過し高波浪が頻発するなど、ホタテガイ漁場を取り巻く環境は変化しており、地新き漁場のホタテガイが高波浪等の影響による斃死が多発しているため、波浪の影響を受けにくい海域に漁場を拡大し、生産性を向上させる必要がある。
 ●また、当海域は、オホーツク海海域をはじめ日本海北部海域で漁獲されるマガレイ資源の天然育成場となっており、マガレイは特にオホーツク海海域における宗谷管内のカレイ類の4割を占め重要度が高い資源になっているものの、近年漁獲に減産傾向が見られているため、資源の回復・向上を目指した施設整備を進める必要がある。

2. 事業検討の 手続（住民ニーズの 把握等）	<ul style="list-style-type: none"> ●H26年（2014年）12月 爆弾低気圧の通過によりH28年（2016年）の漁獲量が45%減少 ●H27年（2015年）6月 湧別漁協より魚礁移設の相談 ●H28年（2016年）4月 関係漁協へ要望調査 ●H28年（2016年）～H29年（2017年） 漁場再生対策の制度化に向けた国との協議及び技術課題の検討・地元説明 ●H30年（2018年）3月 要領改正により制度化 ●H30年（2018年）7月 水産庁へ計画申請・承認
-------------------------------	---

3. 事業効果を 及ぼす 地域・対象	<ul style="list-style-type: none"> ●湧別町、浜頓別町、猿払村 ホタテガイについて、5.323t/年の増加 マガレイについて、0.3t/年の増加
--------------------------	---

4. 関連する事業	事業名	事業主体	事業期間	事業費（百万円）	事業内容

IV 事業の実施状況

1. 進捗状況	(1) 事業実績及び今後の計画														
	施工（工種）区分	工事内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	進捗状況	事業費（百万円）	
	着定基質（湧別）	A=127.13ha		A=127.13ha									100%	534	
	着定基質（頓別）	A=1390.56ha			A=886ha	A=504.56ha							81%	646	
	着定基質（猿払村）	A=1024.45ha						A=1024.45ha					0%	436	
	測量設計費		↔	↔	↔								100%	71	
	モニタリング				↔	↔							33%	36	
														0	
	(2) 進捗状況														
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度までに湧別漁場（127.13ha）及び頓別漁場の一部（331ha）の事業を完了しており、令和4年度は頓別漁場で555haの完了を見込んでいる。 ・新規漁場の追加や事業面積の変更により事業期間を延長しているが、残事業量を踏まえて事業期間の見直しを行っており、期間内での事業完了を見込んでいる。 														

b a：概ね予定どおり実施している。 b：事業計画・期間等を変更し実施する。
 c：問題が生じ、実施に支障をきたしている。

2. 事業効果	経済効果の内訳（百万円）		費用の内訳（百万円）		備考
	項目	R4現在	項目	R4現在	
	漁獲可能資源の維持・培養効果	4,216	事業費	1,585	<ul style="list-style-type: none"> ・「水産基盤整備事業費用対効果分析ガイドライン（R2水産庁）」に基づき算出 ・効果及び費用はR4（2022）に現在価値化し、「整備期間+完了後30年間」で算出 ・費用は、現在価値かにより総事業費と異なる。
	漁業外産業への効果	6,120			
	合計（B）	10,336	合計（C）	1,585	
	B/C	6.52			
	R4現在	前回算定年度：H30年度（2018年度）【事業採択】 前回算定時B/C：2.43 変更理由：			
	6.52	<ul style="list-style-type: none"> ・事業量の増加に伴い、費用の増加。 ・事業量の増加により、さらなるホタテガイ漁場の拡大、マガレイの増殖場の創出がなされたことによる便益の増加 			

3. コスト 縮減など の取組	取組の項目	取組内容	縮減額（百万円）
	なし	魚礁再利用の計画であり、予定通り再利用できたことから新たな魚礁作成の費用がかからないため対策の実施なし。	

V 評価

1. 必要性	波浪等の影響を受けにくい海域にある既存魚礁ブロックを引き上げ、ホタテガイ漁場を拡大する。また、引き上げた魚礁ブロックを別海域に再配置し、マガレイの育成環境となる増殖場へ再編するという当初の目的に変更はないことから、必要性に変化はない。	
	a	a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。

2. 事業を 推進する 上での課題	(1) 環境上の配慮及び課題
	<ul style="list-style-type: none"> ●特になし
	(2) 事業推進に対する住民の動向
	当該地区の漁協や自治体から、漁場整備の推進を要望されており、円滑な事業実施に向けて国に予算要求を行っている。
	(3) その他の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ●特になし

3. 事業達成の見込み	事業採択から、事業の必要性に変化がないことや、事業を推進する上での課題もなく、概ね計画どおりに事業の進捗が図られていることから、予定年度での事業達成が見込まれる。					
	a	a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b：課題はあるものの達成は可能である。 c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。				
4. 対処方針	現時点で想定可能な見直しを全て行っており、残り事業期間内での事業達成が十分に可能なほか、B/Cは6.52となっていることから、令和9（2027）年度の完成を目指して事業を継続する。					
	a	a：継続 b：終了 c：休止 d：中止				
	事業期間変更の有無	有	事業内容変更の有無	有	総事業費変更の有無	有

VI 備考

1. 評価履歴	【評価結果】 事前評価：該当なし 再評価：該当なし
	【特記事項】
2. その他の取組事項	

補足資料

VII 事業計画変更

事業経過							事業費			
	再評価	事業採択	着手	評価年度	変更年度	完了予定	総事業費 (a)	当該年度事業費	累計事業費 (b)	進捗率 (b)/(a)
事前評価又は当初		H30 (2018)	H30 (2018)			H34 (2022)	708			
変更①		H30 (2018)	H30 (2018)		R1 (2019)	H34 (2022)	718			
変更②					R3 (2021)	R9 (2027)	1,687			
変更③	1回目			R4 (2022)	R4 (2022)	R9 (2027)	1,723	263	1,153	67%
変更④										
変更⑤										
変更⑥										
変更⑦										
変更⑧										
変更⑨										
変更⑩										
										4

変更理由・内容	変更①：事業量・事業費の変更 ・ 傾別漁場において、漁協による事業着手前の詳細な測量の結果、当初予定していた計画範囲に隣接しておりホタテガイ増殖場として活用する予定の場所において魚礁ブロックの存在が明らかとなり、地域で想定しているホタテガイ漁場の活用を最大限に確保するため、事業費及び事業面積を増加
	変更②：事業量・事業費の変更 ・ 傾別漁場において、国費による詳細な測量の結果、計画範囲の移設対象の魚礁ブロックが想定よりも多いことが明らかとなったため、事業費及び事業面積を増加 ・ 猿払村において、平成29年から令和元年にかけて地区の主要魚種であるサケの漁獲量減少に伴い、地区の漁業生産額が約3割減少したことを受け、比較的単価が安定していることや、近年の海外需用の高まりにより輸出促進を行っているホタテガイのさらなる生産量増産に向けて、令和元年に地元からのホタテガイ漁場の拡大要望があった。オホーツク海域で策定している漁場再生対策の施策の方向性と合致したことを踏まえ、事前調査及び関係者との調整が終了したことから、猿払村漁場を追加 ・ 湧別漁場において、魚礁ブロックの重複等で確認できなかった移設対象の魚礁ブロックが工事着工中に明らかとなったことから、事業費を増加 ・ 資材及び労務単価の上昇による事業費の増額
	変更③：事業費の変更 ・ 事業完了箇所（湧別漁場）のモニタリングを実施するための費用追加による事業費の増加 ・ 資材及び労務単価の上昇による事業費の増額

